

令和7年 青山長官年頭所感



新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、1月1日に発生した能登半島地震、9月20日から大雨をはじめ、大きな自然災害が全国各地で発生しました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。また、被災地で復旧・復興に尽力されている関係者の皆様方の御努力に敬意を表します。

林野庁としても、令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向けて「奥能登地区山地災害復旧対策室」を設置し、国直轄による災害復旧事業等に当たっているとおり、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組みます。

また、災害はいつどこで起こるか分からないという考えの下、防災・減災、国土強靱化のための森林整備・治山対策を強力に推進してまいります。

昨年の夏も暑い日が続きました。地球温暖化を防止するためには、温室効果ガスの排出を抑制することが必要と言われています。政府は2050年カーボンニュートラルの実現を目指しており、日本全体での温

室効果ガスの排出削減とともに、森林などによる炭素吸収が必要です。

我々森林・林業関係者としては、内閣府の森林に期待する役割についての世論調査でも、「地球温暖化の防止を挙げた人が最も多いことを踏まえ、しっかりと森林を整備し、二酸化炭素を効率よく吸収させていく必要があります」。

戦後我が国で造成されてきた人工林の約6割が50年生を超え、高齢級化が進み毎年の吸収量が減少する一方、木材としての利用期を迎えており、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を確立し、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献していくことが必要です。

森林資源の循環利用は、山村地域の経済の活性化に寄与するとともに、伐採した木材を木造建築・木材製品として利用することで、まちの中でも炭素を貯蔵していくこととなります。

このため、林野庁では、路網の整備や再造林の低コスト化、木材加工流通施設の整備等による生産基盤の強化、JAS材やCLTを用いた建築実証等による木材の需要拡大、技能検定制度の活用等による担い手の育成・確保など、川上から川下までの総合的な取組を進めてまいります。

併せて、国民の4割以上が罹患しているといわれる花粉症への対応については、発生源となるスギ林の伐採・植替えや需要拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大などの取

組を進めます。

また、J-クレジット制度では、これまでに約1,100万トンCO₂が認証されており、このうち、約110万トンCO₂が森林由来の吸収系クレジット、約170万トンCO₂が木質バイオマス由来の削減系クレジットとなっています。森林由来のクレジット認証量は年々増加しており、民間資金の呼び込みに向けて、引き続きクレジットの創出とカーボン・オフセットへの活用の拡大に取り組みます。

今後、我が国は、人口の減少・高齢化が加速する局面を迎えます。これまで木材需要の多くを占めてきた住宅分野での国産材の利用促進に加えて、病院や福祉施設などの公共建築物、オフィスや商業施設などの中高層建築物の木造化・木質化を進め、国産材需要のさらなる拡大に努めます。

「都市の木造化推進法」に基づく国と事業者等による建築物木材利用促進協定の締結件数は、昨年10件が加わり計25件となり、小売業者などの木材の最終消費者との協定も広がっています。これをさらに拡大し、建築物への木材利用を促進します。

林業界における人手不足が課題となる中、外国人材の受入れに向けて、昨年9月、複数年の就業が可能な特定技能1号、技能実習2号・3号の適用対象に林業が追加されました。引き続き業界団体の皆様とも連携し、作業現場における労働安全の確

保に配慮しつつ、外国人材も含めた担い手の育成・確保に取り組んでまいります。

本年は、林業関係の制度にいくつか動きがあります。

森林資源の循環利用を進めていくためには、市町村や都道府県、地域の関係者、受け手となる林業経営体の連携を強化し、迅速に集積・集約化を図る必要があります。新たな仕組みを創設するため、森林経営管理法の改正法案を通常国会に提出します。

4月には改正クレーンウッド法が施行されます。違法伐採対策を強化するため、クレーンウッド・ナビでの情報提供や説明会等により制度周知を徹底するとともに、事業者負担軽減のためのシステムの運用を開始し、合法伐採木材等の流通及び利用を促進します。

林野庁としては、これらの取組を通じて森林・林業・木材産業を持続的に発展させていくとともに、我が国に暮らす全ての皆様、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、公衆の保健、地球温暖化の防止、林産物の供給など森林の有する多面的機能の恩恵を末永く享受できるよう、民有林・国有林が一体となり日々邁進していく所存です。本年も、関係者の皆様、そして国民の皆様の御協力をお願いいたします。

結びに、本年が、皆様一人ひとりとつて実り多き素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。